

平成 25 年度 活動状況

### 全国大会・第 3 分科会「食」の企画・運営など

#### 全国大会 第 3 分科会「食」の企画・運営

食産業研究委員会は、技術士全国大会(札幌：10月3日～5日)において、「第3分科会(食)農山漁村における新たな食産業」の企画運営を担当しました。話題提供をしていただいたシニアソムリエの阿部眞久さん、コーディネーターの北海道フードマイスター(元NHKレポーター)の木村光江さんは、過去に当研究委員会における定例会で講師をしていただいた方です。また、パネルディスカッションでは、当委員会と関わりが深く北海道寿都町で活躍されているマルトシ吉野商店の吉野寿彦代表取締役社長、当研究委員会幹事 置谷勝雄技術士を交え、食をはじめとする地域資源による活性化、6次産業化などの課題や対応事例などについて、意見交換していただきました。

また、第3分科会では、来場者との双方向性を確保した企画・運営をテーマとし、事前に質問票の配布を行いました。受け付けた質問について、パネルディスカッション内で、コーディネーター、パネラーから意見をいただき、議論を深める取り組みを行い、大いに盛り上がることができました。



パネルディスカッションの様子



コーディネーター 木村 光江さん

会場内からは、20通以上の質問票が提出されており、その一部をここで紹介いたします。

- ①地域活性化をテーマとしたとき、ワインを例として、市場拡大の方向性、消費者誘致の方向性について、考えていることを教えてほしい。
- ②加工品(ワイン)の生産にあたって、低コスト化を図るための技術展望と可能性について教えてほしい。
- ③技術士の立場で地域の方々とコミュニケーションをとり貢献していく中で、一番の難しさがあれば教えてほしい。
- ④独自のノウハウを加味した食品加工を行い、それを全国に発信していくためのポイントを、自身の経験から教えてほしい。

本研究委員会では、今回の分科会活動を踏まえ、技術士として地域に貢献できる活動を今後も継続していきたいと考えています。

## 技術士全国大会農業部会 in 札幌への参加

技術士全国大会とあわせ、平成25年10月3日に農業部会 in 札幌が開催されました。

その中で北海道における活動として、当研究委員会の活動事例紹介の時間をいただき、伊藤委員長が報告を行いました。

報告内容は、これまでの当研究委員会の活動実績に基づくもので、平成24年度の実績を主体としたものです。具体的には、寿都町での現地見学会、地域住民、関係者を交えた意見交換会の開催、食産業に関連する専門家を招聘した定例会の開催などです。

農業部会 in 札幌では、「北海道の資源、エネルギーに関するバイオマス利活用の現状と課題」と題し、北海道大学大学院農学研究院 岩淵教授の基調講演も行われ、食産業研究委員会のメンバーも参加いたしました。

内容は、農学と社会のつながり、バイオマスの定義・分類、再生可能エネルギーの定義・分類からスタートし、北海道におけるバイオガスプラントの事例紹介、バイオガス利用における課題、最新事例と今後の展開の流れで、岩淵教授の意見を交えた貴重なものでした。

講演の後は、岩淵教授をはじめ、全国からの来場者との意見交換を主体とした懇談会が用意されており、活発な議論が、あちこちで展開されていました。同じ会場内で、テーブルを寄せ合いフリーに情報交換するスタイルは、とても参考になりました。



北海道大学大学院農学研究院 岩淵教授の講演



会場内での懇談会の様子

## おわりに

食産業研究委員会では、今後も「食」をテーマとした活動を展開いたします。

本研究委員会は、役場や農業者などと、地域の方々と直接的・積極的に交流した活動を行っています。

技術士として、出来ることは何か？ということ…簡単な事ではありませんが、決してあきらめることなく、実践活動を継続したいと考えています。

なお、食産業研究委員会では、会員を随時募集しています。入会を希望される方、研究委員会に出席を希望される方は、日本技術士会北海道本部事務局まで連絡をいただければと思います。



食産業研究委員会 伊藤委員長：報告の様子